

【様式第 4 号】

令和 7 年度 保土ヶ谷区障害者地域自立支援協議会 まちで暮らすネットワーク部会 ワーキンググループ 第 3 回 議事録	
日 時	令和 7 年 8 月 1 4 日 (木) 1 6 : 3 0 ~ 1 8 : 0 0
開催場所	地域活動ホームゆめ 2 F ボランティアルーム
出 席 者	夢 2 1 ホーム (17 時～)、恵和青年寮、十愛病院、基幹相談、てらん広場 【オブザーバー】 恵和めぐみ、神奈川新聞・成田記者
欠 席 者	無
開催形態	公開 (傍聴人: 名) ・ <u>非公開</u>
議 題	1) 自己紹介 2) これまでのキックオフ MTG 振り返り ● 2 回会議に加えて、夢 2 1 の見学会を 8 月におこなった。まだ大枠ができていない。強度行動障害の状態にある方を、地域でどう考えていく、どう地域で支援していくかを考えるのが、このグループで取り組んでいる事。 <u>てらん広場に今回声掛けしたのは、どういう支援をされているのかをぜひ知りたいし、見たい。</u> これまで出た話は WG では議論だけでなく、実際のケースを通じて、アクションを起こしてみたい。<u>机上の議論だけにとどめたくないという共通認識</u>がある。まずは好きなことを話していいと思う (十愛病院) ● <u>本入所だけでなく、短期入所もすごいニーズがある。</u>サービスにつながりづらい人が多く、施設だけでは完結しない。<u>人材育成につながるために、ネットワークが重要</u>ではないか。強行の支援をしている人とつながりを持っていくのが必要。<u>まずは「知る」を大事にしたい。</u> てらんさんは地域移行の実績が多いので、地域生活を維持するために何が必要か、お話を聞きたい。強行の人の対応について、地域の中でなかなか話が聞こえてこないが、声を拾ったり、<u>実際に取り組んでいる人とつながりたい</u> (恵和青年寮)。 3) てらん広場の取り組み (二次相談より) ● てらん広場にきて 5 年目で、まだ現場のことが分かっていない部分がある。 てらんも地域移行、地域で暮らしていけるんだという意気込みでやってきたが、GH がなかなか最近建てられておらず、<u>5 年前に強行の人 (男性のみ) を入れる GH (銀河) を作った。しかし、そこから次のステップにというのが難しい。</u> 入居の利用者さんと会ってみて、穏やかな表情と思ったが、実際には気の抜けないようなケースはある。それでも<u>地域に暮らす中での楽しみは、施設の中で体験するものと違ってあり、</u>調理したりなど、笑顔がでる支援を心掛けている。また本体の (入所) <u>施設には、次を目指したい候補者はたくさんいるが、なかなか送り込めないのが現状。</u>

てらん広場は、支援のアプローチについて特徴のある施設。構造化が取り組まれていない。声のかけ方などを工夫し、ネグレクト（放っておく）にならないように、形式に頼らない試行錯誤（ひと昔前の支援？）をおこなっている。

だんだん職員の異動などで、ノウハウの伝承がうまく行っていない課題が明確になってきている。これからどうしていくか手探りの状態にある。

もともと（発言者自身が）行政ワーカーだったので、強度行動障害ではなくても個性の強い方を対応してきた、どこにもつながらないようなケース。2週間だけでも見てくれると言ってくれたのがてらん広場だった。精神科病院とてらんを組み合わせで何とか生きてきた。

ワーカー時代に担当した方だが、文句言わずに引き受けてくれた。しかし、てらんでの実際の取り組みは直接見ないまま、ご本人がお亡くなりになり、きちんと見たいと思って、てらん広場に就職した（てらん広場）。

3) これから、ワーキングで考えたいことについて

- どこが特に支援が進んでいるというのを知るのではなく、どこがどんな状況で支援しているのかを共有していくのが大事ではないか。いっぽうで、看護や医療だけでできることは限定的。職員のキャリア的な制約もある。皆さん、病院の話を聞くと驚くだろうと言うのはある。

ADLが下がった状態での集団生活でいいのかどうか。地域の力を借りて、ブラッシュアップが出来ないかと思っている。

どうすれば、やりくりしながら地域で暮らし続けられるかを、お互いの機関で調整ができるようになれば、もっと「断らずに、地域のどこかで身を寄せられる」ようになるとよいのではないか。短期と病院だけでは難しいと思うが、「こういう風にできたらいい」というアイデアが形になるのを期待したい。（十愛病院）

- うちの入所は、結局、家に帰れない人が短期入所の多くを占めており、自由枠が少ない。家に帰れないけれど、短期入所を繰り返している利用者もいる。どんづまりの緊急の人の対応はなるべく断らない方針。（てらん広場）

- 実際にこのようにして受け入れたんだという実例や動きを、いろいろな立場（職種や法人の垣根を越えて）の人に知ってもらいたい。（十愛病院）

- 強度行動障害の方への社会資源が足りない中で、どう工夫しているかを共有する必要がある。支援方法の正解はなかなか分からない。支える資源は限られているから、顔を合わせることでアイデアが生まれるのではないか（恵和青年寮）

- 支援の方法が違って、ただ単純にそこにいられた、というのを、「こんなふうに出来た」というのを振り返って、共有できるとよい。大変だという経験だけだと支援の継続がむずかしくなるが、地域だからこそ、実践を共有化できる受け皿がほしい。（十愛病院）
- てらん広場は、強度行動障害の方への支援にあたって覚悟が違うと感じる。それを他の法人にも知ってほしい（基幹相談）
- 緊急の人への対応をどれだけ引き受けられるか。それが、入所施設に求められているのではないか（恵和青年寮）
- 緊急対応について、施設ゆえの葛藤は日々ある（十愛病院）
- 最後の砦としての医療機関は大事な役割ではないか。十愛の先生は話をきいてくれるから行くという利用者がいる（てらん広場）。

4) 8月6日 夢21ホーム見学会 ふりかえり

- Fさんの生活の場を見て、地域で強行の人が生活するには、ものすごい努力と人とお金がかかるのを実感した。いま、基幹に同じような相談がいくつか来ている。重度訪問介護に断られる、入所に断られるケースがある。単身重度訪問と言う選択肢があるが、強度行動障害用のアパートなどあればよい（基幹相談）
- ユニット的な発想が必要ではないか（十愛病院）
- 秋田にある「はる」はそのような施設。完全在宅になるケースが多く、その支援者がユニットケアのできる施設を立ち上げたケースがある。（恵和青年寮）
- 理解ある大家さんとどうつながれるか（基幹相談）
- Fさんの部屋の中に、対策がいっぱい取られているのをひと目でわかった。あれだけいろいろ考えて工夫をしている中で、この状況に何をプラスできるか、をずっと考えていた。朝に不穏状況が起きるのであれば、通所に行くまでの空白の時間帯にやる事を何か提示できれば違ってくるかもしれない。
散歩をどこですか？みたいなアイデアというか、支援のアイデアについて会話の持ち寄りが、Fさんの生活をより豊かにするのではないか。
Fさんは支援者の反応をよく見ている人だと感じた。その中でどんな支援を付け足すかが難しい。空いた時間を何かで埋めるといふ事しか思いつかなかった。彼は集中できる時間があるし、手先も器用という強みがある。ほかに提案できることがあるかもしれない。1人で思っているより、ディスカッションの中からヒントが得

られるのではないか。(十愛病院)

- 今日はFさんをプールに行こうと誘ったが、どうしても嫌だと。それでカラオケに行ったが、カラオケだといくら大声でも誰にも迷惑かけない。(夢 21 ホーム)

5) 入所⇒地域移行の課題について議論

- 支援者の話し合いでアイデアを出し合えば、そのこと自体が職員の精神的なケアにもなるのではないか。1個、やれるだけ突き詰めたいところもある。8割失敗があってもいいのではないか。病棟の中で考えたこととも通じると思った(大泉)。

GHであれをやり切るのは大変だと思った。サテライトで一人を支援つけて、になる。でも、やる意義は確実にある。職員への影響は大きく、大変だと思うけど、これから先を考えると、こんなケースだったら、引き受けられるという懐が深くなるのではないか。

やはり、強度行動障害のGHをやりたい。循環が必要ではないか。GHで受け入れていく意義はある。入所施設から受け入れることで、実践を深められたのは大きい。(恵和青年寮)

- Fさんは重度訪問介護を入れて支援したいところだが、支援方法が確定しない。重度訪問介護に引き継げない状況。このままだと被害を受ける支援者が増えるだけ。もう少しスパン長く考えていく必要がある(夢 21 ホーム)。

- 重度訪問介護を入れた時のチーム作りがなかなか難しい。詰めて改善していくアプローチの時間が取れない課題がある。(十愛病院)

- 今、集中支援をしていて、単身重度訪問介護で地域に出ている人が出てくる。入所の職員が地域に出向いて、OJTするしかない。ある意味で、それが入所の拠点機能ではないか(恵和青年寮)。

- 小地域で取り組んでみて、区域に水平展開できるのが理想的では？(十愛病院)

- 重度訪問介護と行動援護なくしては、地域生活が行動障害の人では成り立たない(夢 21 ホーム)

- 1人の利用者についての標準的な支援法について、重度訪問介護の方はそういう意識がなかなか持っていないのが現状。そこを変えていきたい。(十愛病院)

- 重度訪問介護も全国レベルで、土屋訪問介護が声をかけて、横のつながりを作り始めた。今後、進んでいく可能性はある。(恵和青年寮)

●本人との相性を考慮して、担当者を変えてくれる柔軟性のある重度訪問介護の事業所もある。(基幹相談)

●旭区のあさぞらは、行動障害の方の GH や行動援護もやっていて、行動障害の支援に力を入れている。今年は様々な実践を見に行く1年でもよいのではないか
これをやりましょうというアクションは時期が早いのではないか (恵和青年寮)

5) 今後の取り組みについて

●こういったところを見に行くかをこれから相談していく (恵和青年寮)

●同愛会さんの GH の建物をみるだけでも

→ てらん広場で可能かどうか内部調整してみる (てらん広場)

●中井やまゆり園はどうか? (夢 21 ホーム)

中井の職員さんの関りがすごく親近感があった。ぜひ現場を見てみたい (十愛ん病院) → 夢 21 ホームが調整する。

●見学したい現場のリストを作りたい。

入所から強行で地域に出た人のリストを知りたい (夢 21 ホームが局に問い合わせてみる。くるみ (入所) さんはけっこう地域に出しているのではないかと

わたる (入所) もけっこう地域移行しているのではないかと

地域で定着している現場を見たらどうか。そこが一番むずかしい。(恵和青年寮)

6) 本日の振り返り

●今、全然強度行動障害の人、全然関わっていない。自分だったらどうしようと思う。大変な人ほど受け入れなさいという話を聞くと、最近腹をくくれない自分を感じた。みんな壮絶なところでやっているんだなと思った。(恵和めぐみ)

●勉強不足を感じた。自分が担当していた利用者を引き継ぐときに不安を感じる。さらに別法人に引き継ぐとなると、もっと不安。でも、その人の生活はその後も続くので、切れ目ない支援ができるように支援していくのが大事だと思った。

受入のできる支援はどうすればよいか、考え続けたい (恵和めぐみ)

次回： 2025年9月11日(木) 15:45～17:30 (予定)

※まち暮らし部会(事例検討会)終了後/場所:保土ヶ谷区役所2F 202会議室